

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873900476		
法人名	有限会社 久保田電気		
事業所名	グループホーム マロン館		
所在地	かすみがうら市央倉6182-46 (電話) 029-833-0651		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年7月28日	評価確定日	平成20年11月12日

## 【情報提供票より】(平成20年6月25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成	15年	5月	11日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	14 人	常勤	11 人, 非常勤	3 人, 常勤換算

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(150,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

## (4)利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均	85 歳	最低	69 歳	最高
				97 歳	

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	神立病院 川島医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年に開設されたホームで、1号館、2号館共に管理者の交代がないことでもうかがえる落ち着いた雰囲気のあるホームである。利用者の身体機能が年々低下する事を考慮しながら、日々自由に過ごしながらも常に「ワクワク・ドキドキ」する楽しみがある生活にしたいと管理者・職員は変化のある生活ができるようホームの菜園を充実させたり、ボランティアや小学生の訪問を受け入れたり、外出の機会を作ったりと様々な工夫をしている。管理者・職員は近くのデイサービスとの交流や研修を通して、常に新しい知識を得ながら介護技術の向上に積極的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を基に介護計画作成や見直しについての検討を全職員で行い、全職員の意見・気づきを反映させた計画作成ができるようになった。また飲料水・保存食の備蓄をして災害対策の充実を図った。運営推進会議は2ヶ月に1回の開催を実現させ、家族・行政・地域の方々との関係が親密になり行政・地域との交流もスムーズになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価を実施・記入をしたものを職員が目を通し、気づきや意見があったら、管理者に伝え、訂正する方法での作成をした。一部の職員からの気づき・意見は自己評価に反映できたが、全員が目を通し、それぞれの気づきや意見が管理者に届くまでにはいたらなかった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市の担当者や区長・民生委員・老人会のかた等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。これにより地域の行事に参加する機会や地域の方々ホームを訪れる機会も多くなり地域との関係はより親密になった。また市の担当者がより身近に感じられるようになり、気軽に相談できる関係ができた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時の対応や定期的な家族への報告で家族との意思の疎通が十分に図られており、意見や要望を率直に言えるような環境作りができています。さらなるサービスの質の向上を目指して家族の知恵を出してもらおうような働きかけも期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で開催されるイベントや小学校の行事に利用者が地域の一員として参加している。また地域のボランティアの方々が踊りを披露してくれたり、ホームの除草を手伝ってくれたり近隣の方々とはごく普通の近所づきあいができている。さらにホームは地域の小学生の学びの場としての役割も果たしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と密着したサービスの提供が必要であることを開設当初から理解しており、地域と密接な関係を大切にしながら、事業所が目指すサービスのあり方を理念として作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有に向けては月1回のミーティングにおいては具体的な例をあげて話し合いをしている。さらに理念の3本柱の一つである「楽しく」の実現に向けては利用者からの希望の聞き取りや確認をおこなうなど、全職員が理念の実践に向けた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で実施されるイベントには地域の一員として参加したり、小学校の行事に参加する事もある。また地域のボランティアの方々が踊りを披露してくれたり、ホームの除草を手伝ってくれたりしている。さらにホームは地域の小学生の学びの場としての役割なども果たしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に評価の意義を理解しており、年1回の外部評価をサービスの質の向上のための良い機会と捉えている。前回の改善項目については全職員で十分に検討し、改善に向けた努力を重ねてきた。		管理者だけではなく職員も、自己評価を日々のケアについての振り返りや見直しの良い機会と捉えて、これからも全職員でより積極的に自己評価に取り組んでいくことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の職員や区長・民生委員・老人会の方々等地域の人たちの参加を得て、2ヶ月毎の運営推進会議を開催している。これによりホームに対する地域の理解が深まり、地域との交流が密接になってきている。		運営推進会議がホームの行事の説明や地域との情報の交換の場となる事は重要な事ではあるが、一步進めてサービスの質の向上についての率直な意見を得るための機会にしていくことも期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者が運営推進会議に出席してくれることで市との関係はより密接になっている。また月1回は市の介護相談員を受け入れ利用者の話を聞いてもらうなどして、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回は請求書の送付と共に行事等1ヶ月のホームの予定を知らせている。金銭の出納や職員の動きについては面会時に報告したり、紹介したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情についてはホーム内の受付・外部の受付等を明確にすると共に意見箱の設置もいつでも気軽に伝えられるようにしているが、家族の苦情や意見は出ていない。	○	家族からの意見や要望・苦情等がないことは、日頃から率直な意見が言える環境ができていることもあると思われるが、より良いホームにするため家族の協力も必要であることを伝え、積極的に意見や提案等がもらえるよう工夫していく事が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動による利用者への影響について十分承知しており、職員への慰労会等を設け離職を最小限に留める努力をしている。退職時にも利用者へ不安が生じないよう十分な配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修などの職員研修は、職員それぞれの段階に応じて研修の機会を確保している。また各職員が受講した研修については、報告書を作成し、ミーティング時に報告会を実施することで全職員が共有できるようなシステムを作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームとの交流や近くのデイサービス事業所やケアハウス等との交流をもったり、研修等で親くなった他事業所との交流などを通してサービスの質を向上させていくための情報交換を行っている。		現在の他事業所との交流を大切にしながら、市内のグループホームとの交流も試み、お互いにサービスの質の向上を目指した意見・情報の交換ができる関係作りに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の問い合わせがあった場合には、本人・家族と一緒にホームで過ごし雰囲気を体験してもらっている。また利用開始までには職員が自宅を訪問し馴染みの関係づくりに努めている。利用までに余裕のある場合には体験宿泊も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が人生の先輩であることを常に意識しており、毎日の生活のなかで利用者の豊富な経験や体験から学んでいこうとする姿勢をもって接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で一人ひとりの選択の場面を観察したり、個別に話をじっくり聞いたりしながら利用者一人ひとりの思いや希望の把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや意向を大切にしながら、月1回のミーティングで職員全員が利用者一人ひとりについて話し合いを実施し、それぞれの気付きや意見を反映させた介護計画を作成している。		ホーム内での生活状況のみの観察では得られない利用者についての情報を介護計画に反映し、利用者や家族との関係がより密接になるよう、家族からの意見を聞く機会を設けることや意見を出してもらおうための更なる工夫を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員で定期的な見直しをしている。また月1回のカンファレンスでは利用者一人ひとりの状況を話し合い利用者に変化があった場合には状態に応じた介護計画の見直しをしている。しかし介護計画の実施状況についての具体的な評価は行われていない。	○	介護計画を意識した話し合いをし介護計画の遂行状況を振り返って見ることも必要かと思われる。そのためにはモニタリングの書式の検討、日々の記録では介護計画を意識した記録の仕方などを全職員で検討していく事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会者を駅まで送る事で面会の機会を多くしたり、体調の変化に応じて随時受診の支援をすることで重症化を予防するなどの支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は24時間何時でも受診のできる提携医療機関を確保し、さらに必要に応じて往診してくれる医師がいる。 また提携医療機関の看護師が1週間に2回ホームを訪問して利用者の状況を把握し、職員へのアドバイス等をおこなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	書類での確認はしていないが、利用者が重度化した場合には家族との話し合いをしている。 ホームとしての基準は設けていないが、終末期の受け入れについては本人・家族・職員の協議によって決定している。		本人・家族が安心してサービスを利用し、職員も話し合いの必要が生じた場合の対応がスムーズになるように、重度化した場合のホームの方針を明確にして、利用開始時に説明ができるようにしておくことや、家族と協議をする場合の利用者の状況の目安を文書にしておき、家族との話し合いは記録しホーム・家族で共有する取り組みも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員共に声かけ・介助において、日頃から利用者の尊厳やプライバシーを損ねることのないよう十分な配慮ができています。個人情報の開示についての同意書は用意していない。	○	ホームとして個人情報を開示しなければならない場合もあることを考慮して、利用者・家族から同意書を得るなど、個人情報の取り扱いについての理解をより深めていくことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は本人のペースを大切にしたケアに努めており、日々「今日は何がしたいですか」と聞き利用者一人ひとりの希望を取り入れて自由に過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で栽培した野菜の収穫や調理を利用者・職員と一緒にする事で会話が弾み食事が楽しいものになっている。また献立と一緒に考える事や職員と一緒に食事する事で食事が一層楽しいものになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	長湯の好きな利用者、一日おきの入浴を習慣としている利用者等、それぞれの状況や希望を大切にしながらいつでも入浴できるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの特技やできることを把握し、食事の準備、種まき・収穫・等の畑仕事、行事の式次第を清書する等それぞれが役割をもち一人ひとりが力を発揮する場面を作っている。また遠方へのドライブ・地域の行事に参加する等の外出の機会を多くして変化のある暮らしをとおして気晴らしを図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースには一休みのできる通所施設があり、天気の良い日には毎日のように散歩をしている。また食材の買物等、利用者の体調・希望にそって外出の機会を設けている。ホームの敷地内の畑には自由に出かけ戸外での開放感をあじわい、気持ちの良い時間が過ごせるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は鍵をかけることによる弊害を十分に理解し、日中は鍵をかけないケアの実践をしている。警察署・消防署・近隣の住民への協力依頼も行い利用者の安全確保に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との協力で避難訓練を年1回実施し、緊急時の連絡網を整備したり、飲み水・食料の備蓄をしたりと災害対策が勧められている。また職員のための避難訓練を年2～3回実施して緊急の場合に役立つようにしている。		災害等の緊急時に近隣からの協力が得られるような働きかけや避難場所を確認しておく事等具体的な取り組みをさらに進めていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事については保健センターの栄養士に献立をみてもらいカロリー・バランス等はだまかに把握している。水分摂取に注意を必要とする利用者にはペットボトル(1ℓ)を利用して飲水量の確認をしている。また月2回体重測定をして利用者の健康維持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした空間にソファが所々に置いてあったり、数多くの図書があって、利用者はそれぞれの好みの場所で好きな事をして寛げるようになっている。玄関には季節の花が飾られ、さり気なく椅子が置かれて何処でも利用者同士や訪問者と落ち着いて話ができるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者それぞれの好みによって、和室や洋室になっており、趣味の品々や大切にしている物が置かれて、その人らしさが感じられる個性的な空間になっている。利用者や家族の思いを大切にしながら一人ひとりが安心して過ごせるようにこの職員の配慮が十分感じられた。		